令和７年度学校評価表

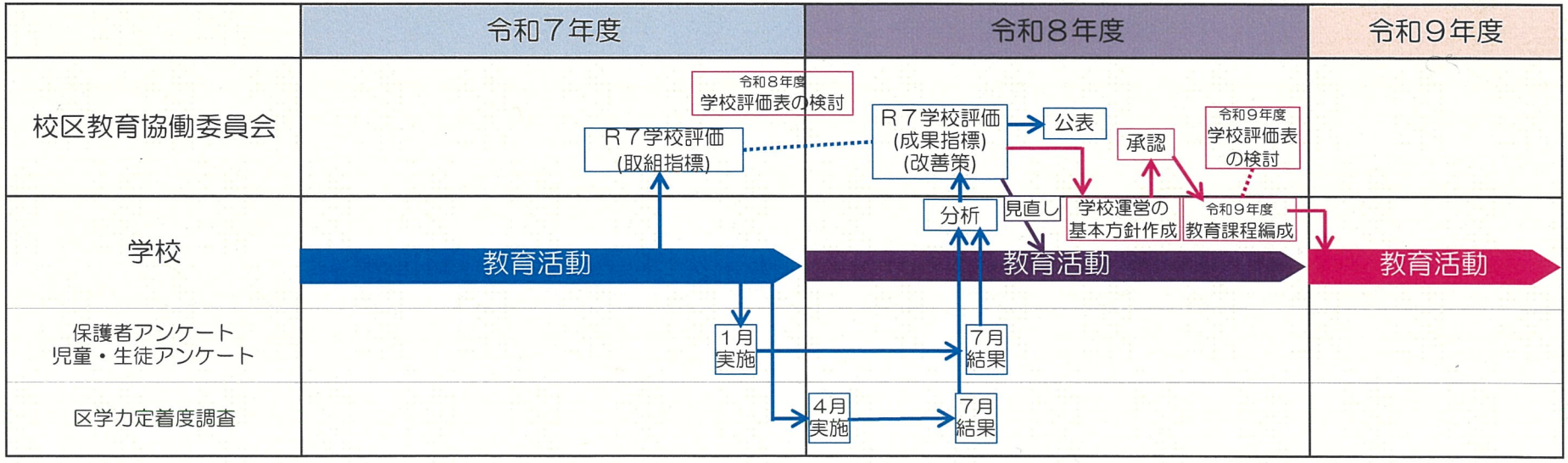
品川区立第四日野小学校	校長	萩原　忠幸
第四日野小学校校区教育協働委員会	委員長	鈴木　美紀

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正　令和5年３月２４日 教育長決定 要綱第５号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

(1) 学力に関すること。
(2) 人間性や社会性に関すること。
(3) 体力・健康に関すること。
(4) いじめ防止の取組に関すること。
(5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。
学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和７年度の学校評価が令和８年度および令和９年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和７年度　学校評価　品川区立第四日野小学校

評価項目１　学力に関すること

重点目標	○主体的な学びを通して「考える力」を育てる ◇基礎・基本を確実に定着させる。 ◇学習習慣を確実に定着させ、表現の場を充実させる。 ◇授業改善に努め、児童の学習意欲の向上、授業力の向上を図る。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	東京ベーシックドリル診断シートを活用し、平均正答率70%以上を目標とする。	東京ベーシックドリル診断テストの平均正答率は、約平均60%であった。 品川区学力定着度調査、全国学力・学習状況調査の結果では、本校の平均正答率は目標値を上回っているので、基礎基本の学力の定着は図られている。設問数が20問以下のため、ケアレスミスにより、平均正答率が下がっていると思われる。	B	・概ね、基礎基本な学力の定着の定着が図られている児童は多いと思われるが、未定着の児童もいるので、はげみ学習の時間につまづきを埋めていく。 ・ベーシックドリル診断テストで、満点の割合が低い。解答の方法は、分かっているものの、ケアレスミスが多いのが、ベーシックドリルの平均正答率が上がらない要因でもあるので、落ち着いて取り組むことと、見返すことを習慣づけたい。
	朝・昼のはげみ学習（15分のモジュール学習）を計画的に実施し、国語年間20時間以上、算数30時間以上の時間を確保し、基礎基本の定着を図る。	はげみ学習（15分のモジュール学習）を、国語年間20時間以上、算数30時間以上実施した。教師の補助として、保護者にも、ボランティアで入っていただき、子どもの学習支援をしていただいた。	A	
	習熟度別少人数指導、都費講師、区費講師、指導助手等の人材を活用し、複数体制で指導を行うことで、個に応じた指導の充実を図る。	5・6年生家庭科、1・2年生音楽、1年生～4年生算数指導助手658時間の配置で、専門的な指導並びに、児童の個別支援を実施。	A	
②	児童アンケート「自分の考えを友達に伝えることが好きですか。」の肯定的評価を80%以上とする。	「授業で、自分の考えを友達に伝えることができる。」と回答した割合は、93%であった。	A	・校内研究で、『 「話すこと・聞くこと」を通して 』のテーマに重点的に学習を進めた結果、伝えることの自分の考えを伝えることに対する抵抗感は薄くなっている。「分かりやすく伝える」「正確に聞き取る」等の技能を更に高めて行きたい。
	自分の思いや考えを伝える力を養うために授業研究を年6回実施する。	国語科『 「話すこと・聞くこと」を通して 』の研究テーマのもと、全体会を2回、授業研究を4回実施。全国学力定着度調査児童質問において「）5年生までに受けた授業では、算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか」の質問で東京都と全国の割合から約18%上回っている。	A	
③	教師アンケート「児童の学習意欲を高めるため、授業改善を行っている。」の肯定的評価を85%以上とする。	「児童の学習意欲を高めるため、授業改善を行っている。」のアンケート結果は、100%が行っていると回答している。	A	・全教員が、授業改善に努めており、引き続き、教材研究、指導法の改善に努める。
	各教科の単元ごとに教材研究を行い、児童の学習意欲を向上させるとともに、計画的に授業改善を図る。（適宜学年会を設定）（指導案検討　研究授業4時間分）	授業改善のために、学年でお互いの授業を見あったり、教材研究を行ったりしている。年間2回、授業公開として、管理職が授業観察を行うとともに、お互いに見合った。	A	
	教師アンケート「互いに学び合い、深め合える授業構成を工夫している。」の肯定的評価を85%以上とする。	「互いに学び合い、深め合える授業構成を工夫している。」のアンケート結果は、100%が工夫していると回答している。	A	

令和７年度　学校評価　品川区立第四日野小学校

評価項目２　人間性や社会性に関すること

重点目標	○主体的に考える児童の育成を目指し、生活面でも意識して指導を行う。 ◇年間生活目標の「あいさつをしっかりします」を基本に、他者を尊重する態度を身に付けさせる。 ◇『四日野っ子のちかい』をもとに、全校で一致した生活指導を推進し、社会での基本的なマナーやルールを守る態度を育てる。 ◇学級集団での関わり、学年を越えた他者との関わりを充実させ、自尊感情を高める。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	80%以上の児童が、「自分を大切にする」「友達を大切にする」「自他を認め合う」という意識をもてるようにする。	児童アンケートにおいて、「自分を大切にしている。」と答えた児童は、91%「友達を大切にしている。」と答えた児童は、95%であった。	A	・自分も友達も大切にしなければならにという意識を育むことはできている。しかし、友達が傷つく言動もみられる。認め合いの姿勢を代表委員が中心となり、児童の発信で、『四日野 いきいき月間』を充実させていく。 ・プラスのストロークで常に、児童のことを中心に考えた指導を今後も行っていく。
	90%以上の教員が、「児童に対し、プラスのストローク（挨拶する、ほめる、微笑む、励ます、話を聞く）の働きかけを行っている。」と肯定的な自己評価をできるようにする。	教員アンケートにおいて、「児童に対し、プラスのストロークの働きかけを行っている。」と答えた教員は、100%であった。	A	
②	80%以上の児童が、「責任をもって、自分の仕事に向かい合っている」「誰かのためになっている」という肯定的な評価をできるようにする。	児童アンケートにおいて、「責任をもって、自分の仕事に向かい合っている」と答えた児童は、91.5%「誰かのためになっている」と答えた児童は、93.5%であった。	A	・係活動、委員会活動、わくわく班活動、学校行事等、児童が活躍できる場を、意図的、計画的に設定している。令和7年度は、本校100周年の記念の年であり、6年生の活躍は目覚ましいものがあった。今後も、活躍の機会をつくり、企画運営の方法を助言することで、自己有用感を高めて行きたい。
	教師アンケートにて、「係活動や委員会活動等、責任をもって自己の役割を果たすよう指導している。」と肯定的評価を90%以上とする。	教員アンケートにおいて、「係活動や委員会活動等、責任をもって自己の役割を果たすよう指導している。」と答えた教員は、100%であった。	A	
	教師アンケートにて、「異学年交流（わくわく班活動）、外部人材活用などの多様な人たちと関わる活動の充実を図っている。」と肯定的評価を85%	教員アンケートにおいて、「異学年交流（わくわく班活動）、外部人材活用などの多様な人たちと関わる活動の充実を図っている。」と答えた教員は、100%であった。	A	
③	80%以上の児童が、「あいさつをしている。」「学校の決まりを守っている。」という意識をもてるようにする。	児童アンケートで、「先生や友達にあいさつができた。」と答えた児童は、95.5%「学校の決まりを守っている。」と答えた児童は、89.6%であった。	A	・多くの児童が挨拶をしている。6年生が、主体的に、あいさつ運動として、校門や校内の要所で「おはようございます。」と声をかけているのが大きな要因と考えられる。今後も良き伝統として、児童によるあいさつ運動を続けていきたい。 ・『四日野っ子のちかい』を意識して生活している児童は80%の目標に届いたものの、教室掲示だけでなく実際に、振り返る機会を多くしていく。
	四日野っ子のちかいの定着率を「よくできた・できた」合わせて80%とする。	児童アンケートで、「『四日野っ子のちかい』を意識して生活している。」と答えた児童は、80.1%であった。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立第四日野小学校

評価項目３　体力・健康に関すること

重点目標	○健康である楽しさを実感させる。 ◇自分で健康管理や体力づくりができるようにする。 ◇「トライアルウィーク」など、運動に親しむ機会を多様に創出する。 ◇「四日野っ子週間」や「健康キャンペーン」、保健指導や食育の充実による健康教育を推進し、望ましい生活習慣の理解と自ら改善しようとする態度を育成する。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	80%以上の児童が、「運動をすることが好きだ。」「自分の健康に気を付けて生活している。」と肯定的評価をもてるようにする。	児童アンケートで、「運動をすることができた。」と答えた児童は、81.6%「自分の健康に気を付けて生活することができた。」と答えた児童は、89.6%であった。	A	・校庭が未完成の中で、体を動かす機会を工夫して確保できた。校庭の完成と共に、活動場所が確保できるが、「運動をすることができた。」と答えた児童は目標ぎりぎりだったので、運動に親しむこと、住体的に運動に取り組めるような声掛けは、続けて行きたい。
	体育館、ミニ校庭、低学年テラスなど、運動ができる場所を工夫し、運動に親しめるようにする。年3回品川スポーツトライアル週間を設け、自己の体力や運動能力に関心をもたせる。	校庭はまだ完成していないが、体育館、ミニ校庭、低学年テラスの他、多目的教室等を活用して、運動に取り組んだ。体育委員会の児童も、スポーツトライアル週間では、体を動かすように呼びかけを行った。	A	
②	健康教育を実施し、心身ともに健康な児童を育成する。	保健委員が、全校朝会で、早寝、早起き、運動に関するクイズを発表したり、１週間の健康キャンペーンで生活を振り返ったりすることで、生活リズム向上の意識を高める活動を行った。	A	・夏季休業期間、養護教諭からの宿題として、「いきいき貯金」という生活週間に関する宿題が出されている。夏季休業中の生活課題として、保護者から多く聞かれる課題は、早寝・早起きができていないとのことである。特に高学年は、塾で帰りが遅くなることと、帰ってからも勉強をするということで、どうしても就寝がおそくなってしまうようである。引き続き、よりよい生活習慣の大切さを、発信していく。
	四日野っ子週間 令和7年9月29日（月）～10月5日（日） 「ノーメディア」に取り組む 令和8年2月16日（月）～22日（日） 「運動」に取り組む	四日野っ子週間で、「ノーメディア」「運動」に取り組んだ。「ノーメディア」週間では、『タブレットの使用時間が長い』という課題が明らかとなり、「運動」に取り組む週間では、『寒くても、外で体を動かす機会があり良かった』という感想があった。	A	
	学校薬剤師をゲストティーチャーとし、５・６年生において、薬物乱用防止授業を実施する。	学校薬剤師を招いた授業を、１月5年生に薬育の授業を実施。2月6年生に薬物乱用防止の授業を実施。薬の飲み方や、禁止ドラッグについて学習した。	A	
③	「食」に関する知識と、バランスの良い「食」を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践できる力を育む。	教師アンケートで、「家庭科の授業や、給食指導を通し、バランスよく食べることの大切さを伝えている。」と答えた教員は、87.5%であった。	A	・多くの児童がバランスの良い食事を意識し生活している。専科教員や特別支援教室担当教員も全教職員で、給食指導に当たっている。栄養士との連携を図りながら、食物アレルギー事故を起こさず、給食指導の意義を意識し、望ましい食習慣の形成を図る。今後も、栄養士と連携を図りながら、家庭科の授業や、給食指導を通し、バランスよく食べることの大切さを伝えていく。
	家庭科の授業や、栄養士と連携した食育の授業を実施し、80%以上の児童が、健全な食生活への取り組みに肯定的な意識をもてるようにする。	児童アンケートで、「バランスの良い食事を意識し、きらいな物でも少しは食べるように努力した。」と答えた児童は、91.5%であった。多くの児童が、バランスの良い食生活に対する肯定的な意識をもっていると言える。家庭科では栄養素のバランスを考えて献立を作ったり、調理をしたりすることで、食への関心が高まっている。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立第四日野小学校

評価項目４　いじめの防止の取組に関すること

重点目標	○いじめの未然防止を図るとともに、早期発見・早期解消を図るために組織的に対応し、いじめのない学校を目指す。 ◇「いじめはどの子どもにも、どの学校にも起こり得る」という前提に立ち、未然防止および発生時の迅速な対応に、全力を尽くす。 ◇すべての児童が、いじめを自分のこととして受け止め、自分たちで防止・解決しようとする力を育成する。 ◇「 いじめは、どんな理由があっても許されない」という学校・学級の風土を作る。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	いじめの、未然防止、早期発見、早期解決に努める。いじめ解消率を100%に近づける。	90%のいじめ事案は、年度内に解消。継続案件についても、R8年度5月迄経過観察をして解消に至った。	A	・「デイケン」「NiCoLi」「いじめDアンケート」「 学校風土調査」等、区の１人１台端末を活用した各種調査を通し、いじめの早期発見に努めた。幸い、重大案件に至らずに済んだ。引き続き、トリプルチェンジの学習を確実に実施し、全児童が「いじめ」をしない、許さないという風土を培っていく。
	「デイケン」「NiCoLi」「いじめDアンケート」「 学校風土調査」等、区の１人１台端末を活用した各種調査を確実に実施し、結果をもとに、いじめを早期に発見する。	教員アンケートにおいて、「『デイケン』等各種調査や、学級での様子から、いじめの早期発見に努めていると答えた教員は、100%であった。	A	
	年3回、いじめ防止授業、「トリプルチェンジ」を、全クラス実施し、いじめの未然防止に努める。	『トリプルチェンジ』の授業を通し、いじめの未然防止、早期解決に努めている。」と答えた教員は100%であった。	A	
②	教員アンケート「いじめ問題、不登校、その他問題傾向のある児童への対応を全校的に共通認識し高める」意識が100%に達する努力をする。	教員アンケートにおいて、「いじめ問題、不登校、その他問題傾向のある児童への対応を全教職員で共通認識し、対応している。」と答えた教員は、100%であった。	A	・いじめ問題、不登校等全教職員で情報を共有し、組織的に対応をしてきた。いじめ事案の解消だけでなく、不登校の対応に全教職員で情報を共有しながら当たっている。今後も、校内別室指導（すてっぷルーム）も月～金の午前中、校内別室指導員と連携を図りながら、登校を促し、教室に入れるようにしていく。
	学校いじめ対策委員会を毎月１回実施し、いじめ解消へ向けて、組織的に取り組む。毎週、金曜日の夕会で、生活指導に関する情報交換を行い、全教職員で、問題行動の情報を共有する。	全教職員で、児童の様子を共有するとともに、「デイケン」「NiCoLi」「いじめDアンケート」「 学校風土調査」等の情報をもとに、いじめの情報を素早く検討し、解消に向け組織的に取り組んだ。	A	
③	児童アンケート「友達の個性を認めて、仲良くすることができている。」の肯定的評価が90%以上とする。	児童アンケートで、「友達の良いところを見つけて、仲よくすることができた。」と答えた児童は、93%であった。	A	・5年生を中心に、全校で人権の花活動に取り組んだり、6年生が品川区代表として、人権作文の発表を行ったりできた。人権に関して意識して意識させる機会は多く作った。全児童が、人権について考えて行動できている訳ではない。引き続き、全教育活動を通し、人権を無視した言動を見逃さずに、全教職員が指導を行っていく。
	「四日野いきいき月間」 、「生命を大切にする指導」、「人権意識を高める指導」など、児童の人権感覚を高める指導を行い、教員アンケートで、児童の人権意識を高める指導を行っているという肯定的評価を100%とする。	「いきいき月間」「人権標語作り」「いのちの授業」などを通し、児童の人権意識を高めていると答えた教員は、100%であった。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立第四日野小学校

公開

評価項目５　（特色ある教育活動に関すること）

重点目標	○開かれた学校（ともにある学校）を目指す。 ◇コミュニティスクールの学校支援ボランティアと地域の方との連携を深める。 ◇ICT機器を効果的に活用し、児童の学習意欲を高め、児童がよりよく考える授業を展開する。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	教員アンケート「ICTを活用して、分かるできる学びの楽しさを児童に味わわせることができる授業をおこなっている」の肯定的評価90%以上を目指す。	教員アンケートで、「ICTを活用して、分かるできる学びの楽しさを児童に味わわせることができる授業をおこなっている」と回答した教員は、100%であった。	A	・積極的にタブレットを活用して学習に取り組んだ。今後も、より、効果的で、楽しい授業にするための工夫が必要である。
	一人1台貸与のタブレット端末を有効活用し、学びの楽しさを児童に味わわせることができる授業を工夫したり、そのための研修会を実施したりする。	・全教員が、毎時間、全児童にタブレット端末を使って学習指導を行っている。教材研究時や、教材作成時に、タブレット端末を使い、使い方を工夫している。	A	
②	学校地域コーディネーターとアシスタントコーディネーターを中心に学校支援ボランティアの充実を図る。	多くの方が、学校支援ボランティアに登録をしていただき、学習支援の充実が図れた。また、はげみ学習支援ボランティアの保護者と、意見交流会を実施し、学習ボランティアに入った時の悩みについて、有意義な情報交換を行った。	A	・保護者ボランティアだけでなく、町会、地域商店街、銀行や東急電鉄といった地域企業、保育園、児童センター、市立学校といった多岐に渡り、学校地域コーディネーターがつながりをもち、児童の学習を支えている。
	「はげみ学習」を朝と昼に設定し、学習支援ボランティアと協働して一人一人の児童の基礎基本の定着を図る。	延べ、180人以上のボランティアが、はげみ学習をはじめ、家庭科実習などの授業に携わり、児童の学習支援に当たった。	A	
	学校支援ボランティア組織を整備するとともに、地域で学ぶ授業や未来塾の計画を改善する。	第四日野小学校同窓生をはじめ、町会の方々にゲストティーチャーとして授業に参加していただいた。また、地域の商店街や工場、公共機関の協力を得て、見学や職場体験などを実施した。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成